

会 議 録

会 議 の 名 称	第10回弘前城跡本丸石垣修理委員会
開 催 年 月 日	平成26年 8月25日 (月)
開 始 ・ 終 了 時 刻	10時00分 から 11時30分まで
開 催 場 所	弘前市立観光館2階 研修室
議 長 等 の 氏 名	田中哲雄 (元文化庁主任文化財調査官)
出 席 者	北垣聰一郎、関根達人、千田嘉博、長谷川成一、福井敏隆、柳沢栄司
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	(公園緑地課) 課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、参事・小林勝、課長補佐・小嶋修造、主幹・石川竜明、主査・横山幸男、主事・今野沙貴子 (記録) (弘前市教育委員会) 教育部長・柴田幸博、文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・斎藤弘之、同課文化財保護係長・鶴巻秀樹、同課主査・小石川透、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介
会 議 の 議 題	弘前城跡本丸石垣修理について ① 平成26年度第1回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会要旨について ② 弘前城本丸石垣石材調査について ③ 弘前城跡本丸石垣すべり出し対策検討について
会 議 結 果	① 石垣修理に係る発掘調査については、今度の調査で留意すべき点が示された。 ② 石垣の新補石材確保については、石の色目と強度についてさらに調査すること。 ③ 石垣すべり出し対策については、伝統的工法を基本に対策を検討することと、現代工法を採用する場合は工法選択の理由を明確にするよう指示があった。
会 議 資 料 の 名 称	① 平成26年度第1回弘前城本丸発掘調査委員会要旨 ② 弘前城本丸石垣石材調査 ③ 弘前城跡本丸石垣すべり出し対策検討資料

<p>会議内容</p> <p>(発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>① 平成 26 年度第 1 回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会要旨について</p> <p>(事務局) 現時点での発掘調査の成果として、近代の石垣修理範囲の確定と、近世(慶長・元禄)の盛土の堆積状況についての 2 点を報告。</p> <p>(委員会) 今後の調査において、以下の点に注意してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代の石垣修理と近世(元禄)の石垣築造について、図面上で整理しておくこと ・裏込石の記録を取っておくこと ・飼石の形状確認 ・慶長の石垣と元禄の石垣との関係確認 ・石垣の構造確認 <p>② 弘前城本丸石垣石材調査について</p> <p>(事務局) 弘前市内湯口の砕石場で採れる石材を、石垣修理の新補石材候補としたい。近世と同じ岩木山麓からの採石であり、石質も石垣と同じ輝石安山岩であることから、問題ないと考える。</p> <p>(委員会) 石質は石垣のものと同じようだが、石の色目や強度の問題もある。新補石材の色目が従来の石垣のものと異なる場合、修理後の石垣に違和感が出てしまう。また、湯口の石は割れやすいのではないかという、専門家の話もある。新補石材については、さらに調査してほしい。</p> <p>③ 弘前城跡本丸石垣すべり出し対策検討について</p> <p>(事務局) 石垣修理の際、石垣背後の盛土構築にジオテキスタイル工法を採用したい。</p> <p>(委員会) 基本的には伝統的工法での修理を基本とすること。しかし、現段階までの調査で、石垣背面の盛土の土質に問題がある可能性があることも事実である。今後、石垣の孕んだ原因をより明確にすることで、修理工法も決まってくる。なお、ジオテキスタイル工法は現代工法であり、この工法を採用せざるを得ないのであれば、工法選択の根拠を明確にすべきである。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開、非公開…公開 ・傍聴者数… 3 名 (東奥日報・陸奥新報記者) ・委託業者… (公財)文化財建造物保存技術協会 春日井氏・富沢氏